

謹賀

元号が平成から令和となり、
今年は、恒例である「新年のあいさつ」にかわり、町長と議長の

新年

初めての新年を迎えます。
対談を行い新年の抱負などを語っていただきました。

昨年を振り返って、
どんな1年でしたか？

町長 町長として2年目を迎えた昨年は、マニフェストの中で一番大事にしている「安全安心なまち」を実現するための一歩として、小中学校へのエアコン設置と役場非常用電源の改修に着手することができました。

近年の猛暑は室内でも死者を出すほど深刻化しており、エアコンの無い教室で子どもたちが授業を受けることを心配していました。予算を考慮し、毎年1校ずつエアコンを設置していく計画でしたが、記録的な猛暑が続いたことで、国が設置費用の補助を出すことになり、全校一斉にエアコンを設置することができました。

同じように問題視していたのは役場の非常用電源です。これまでの非常用電源は、停電時に稼働時間が15分しか持ちませんでした。30年ほど前の導入時は、紙や電話といったアナログなものを使用しての業務が主流であったため、電源の稼働時間が15分でも問題無いとされてきました。しかし、今はコンピュータ処理が通常化しており、手続きはすべてパソコンなどの電子機器で行うのが主流となっています。そのため、15分で電源が落ちると、

と、役場内のほぼすべての業務が滞ってしまつたため、改修に乗り出しました。これにあわせて防災無線のデジタル化も行い、災害時の通信状態の見直しを行いました。

どちらの事業も多くの予算が必要でしたが、議会と話し合い、事業の必要性を理解し、予算を通していただけたいことは本当に有り難かったです。

議長 町議会議員選挙があり、議長に就任して1年目でもあったので、とても忙しい1年でした。

議長として、議会運営が円滑に進むよう思案し、広域的な活動も多く、目まぐるしく時間が過ぎていきました。多忙な中に、責任の重大さを改めて痛感しながら、自分なりに頑張った1年だと思います。

また、議長としては新人でしたが、他議会や会合に参加したときは、須恵町議会の代表として、誇りを持って対応できたと思います。

今年やってみたいことは何ですか？

町長 二つあります。一つは、昨年、学校のエアコン設置や非常用電源の改修といったハード事業を実施したので、今年はソフト事業を確立させ

たいと思っています。昨年、各区で自主防災組織を設立していただきました。この組織をただ作って終わりにするのではなく、どのように機能させるかを防災担当課と話し合いながら検討していきます。将来的には、「須恵町防災の日」を設定し、年に1回、何か災害が起きたと想定して町の防災組織や消防団などと一緒に訓練を行いたいと考えています。そのような活動を通して、町民皆さんに今まで以上に防災意識を持っていただけたらと思っています。

もう一つは、SUENOBA事業の収益をあげることです。SUENOBAが本格的に始動して1年少々経ちました。私が町長になったとき、SUENOBAについて、認知してもらうことに3年、事業として利益が上がるのに5年、スタンダードな自治体の事業として認知されるまでに10年かかると話しました。昨年は、事業協同組合の認可が下りたほか、特定支援管理団体になるなど、事業体制の準備を進めることができました。そこで、今後はどのように展開したらよいかを検討した結果、須恵町の中小企業を救うためには、町の中だけで経済振興を進めても限界があると考え、九州全域の中小企業に

SUENOBAの理念を理解してもらい、その集合体としてSUENOBAを機能させる構想を練っています。10年後には、全国で約250万社の中小企業が廃業するといわれ、そのうち170万社は、業績不振ではなく事業継承者がいないため廃業するといわれています。SUENOBAは、そんな中小企業を支援するために活動しています。

議長 昨年の選挙により、5人の新人議員が誕生しました。議員として研鑽を重ね、その上で自分の意見を持つて主張できるようにもなりたいと考えています。議長としては、二元代表制の一翼を担う議会として、しっかりと継続させ、発展させていく役割があると思っています。

そのため、須恵町議会の議会力向上に向けて、議員全員で研修に励みたいと思います。まずその第一歩として、今月、全国各地で実績のある著名な講師を招き、議会における一般質問の研修会を実施します。これは、私も含め、議員個人の質問力を高めるためです。これにより、町政について、町の考えを詳細に引き出し、課題や改善を見出すことができると考えています。

一人一人が議員としての自覚を
持つための改革を

—— 須恵町議会議長 松山 力弥

安全安心なまちづくりを
目指して

—— 須恵町長 平松 秀一

